

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ A型肝炎の報告が1例(60歳代男性)あり、症状は全身倦怠感、発熱、肝機能異常です。本年の累積報告数は5例となりました。
- ・ 日本脳炎の報告が1例(50歳代男性)あり、症状は発熱、項部硬直、意識障害、筋硬直及び不随意運動です。感染地域は国内で、感染経路は不明です。
- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が2例(80歳代男性及び80歳代女性)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は31例となりました。
- ・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(20歳代男性)ありました。症状は下痢、粘血便、しぶり腹、大腸粘膜異常所見です。本年の累積報告数は12例となりました。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(60歳代女性)あり、症状はショック、腎不全、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹です。感染地域は国内で、感染経路は創傷です。本年の累積報告数は8例となりました。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が2例(50歳代及び80歳代男性)ありました。ともに感染地域は国内です。本年の累積報告数は67例となりました。
- ・ 百日咳の報告が1例(70歳代女性)ありました。感染地域は国内です。本年の累積報告数は105例となりました。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数が1.75(121例)となり、「流行シーズン入り」となりました。手洗いとうがいを励行し予防に努めましょう。

◆ 今週のトピックス: <日本脳炎>

1999年4月からの「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行によって、日本脳炎が4類感染症に指定されて以来、京都市で初めて日本脳炎が1例報告されました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 7例(肺結核 4例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 301例(肺結核 133例, その他結核71例, 潜在性結核感染者 97例)うち喀痰塗抹陽性 62例】
- ・ 四類: A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- ・ 四類: 日本脳炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 四類: レジオネラ症 2例【1月以降の累積報告数 31例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢 1例【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 8例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 67例】
- ・ 五類: 百日咳 1例【1月以降の累積報告数 105例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	1. 75	121
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3. 84	165
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1. 81	78
	③ 水痘	0. 70	30
	④ 咽頭結膜熱	0. 44	19
	⑤ 手足口病	0. 37	16
眼科	流行性角結膜炎	0. 20	2

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <日本脳炎>

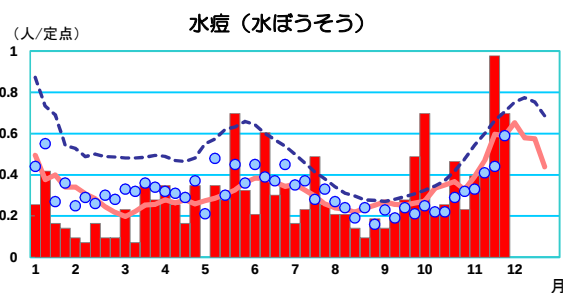
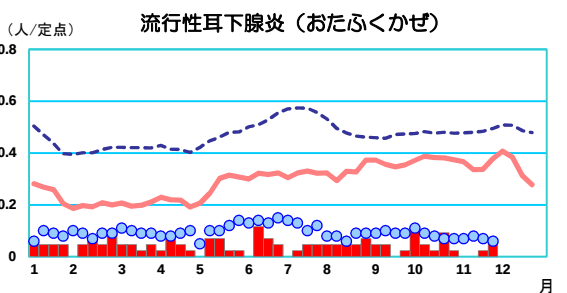
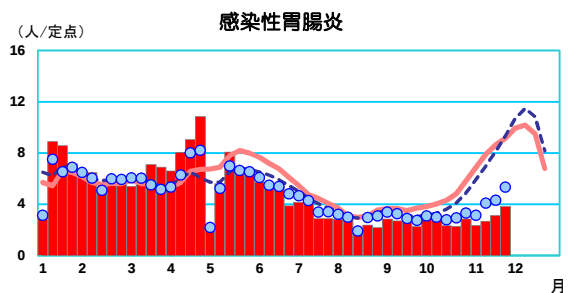
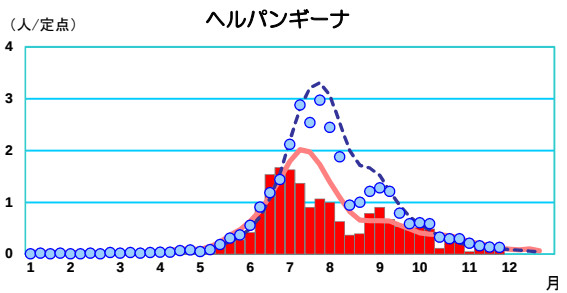
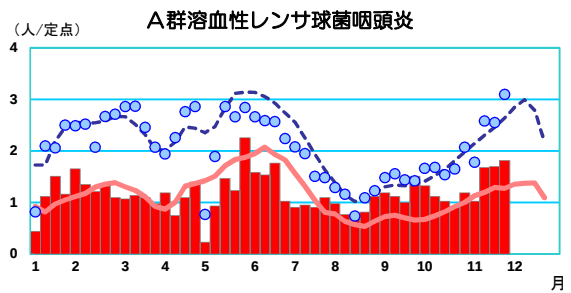
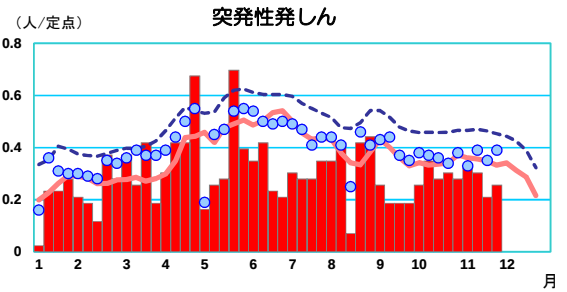
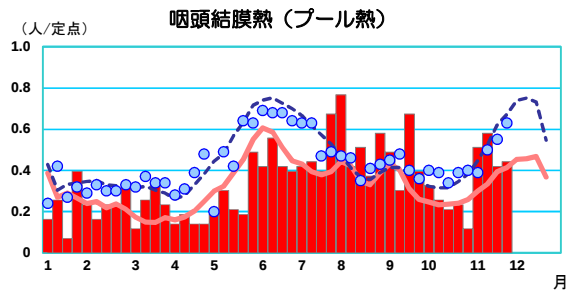
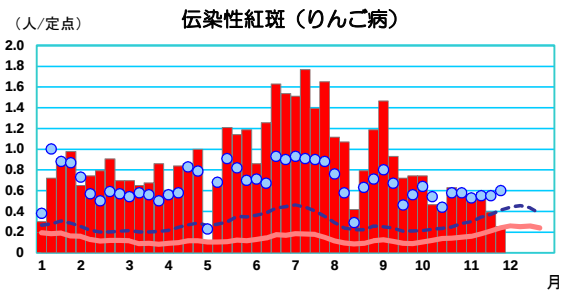
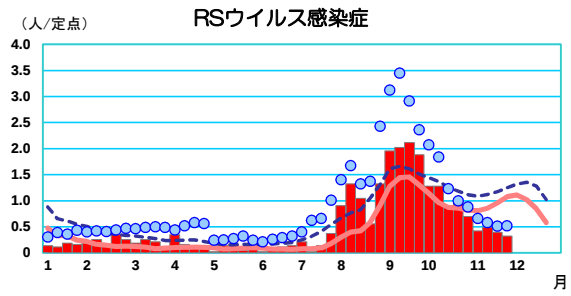
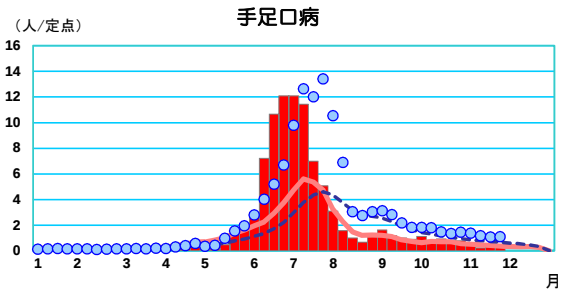
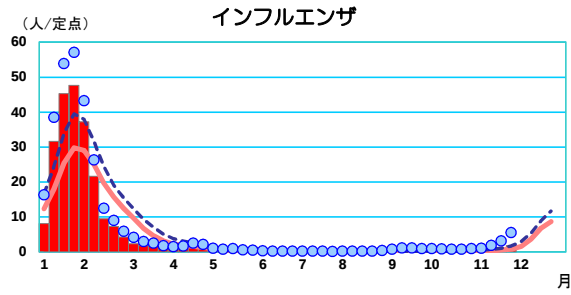
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年12月4日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第48週(11月25日～12月1日)トピックス: <日本脳炎>

1999年4月からの「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行によって、日本脳炎が4類感染症に指定されて以来、京都市で初めて日本脳炎が1例報告されました。国内では、2009～2019年第48週までで合計53例の報告数です(表1)。

日本脳炎は、日本脳炎ウイルス(JEV)を原因とする感染症で、主症状は発熱、頭痛、意識障害、麻痺、けいれん等です。感染しても症状が現れないことがほとんどですが、発症した場合、致死率は20～40%で、回復しても生存者の40～70%に麻痺、神経発達遅滞、精神障害などの後遺症が残ります。

本疾患は、主にコガタアカイエカが媒介する蚊媒介感染症として知られています。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺したコガタアカイエカがヒトを刺すことで感染します。1960年代まではJEVに感染しているブタの多い地域に多くの患者発生が見られました。現在では、日本脳炎ワクチン接種の普及や生活環境の変化等により、ブタの感染状況と患者発生状況が一致しないこともあります。感染流行予測調査事業でブタのJEV抗体保有率を調査しています。最新の報告では、大分県や長崎県など西日本において相対的に抗体保有率が高くなっています(図1)。

近年、国内における日本脳炎の報告数は年間0～10例前後ですが、東アジアから東南アジア、南アジアにかけての温帯地域、熱帯地域に広く流行しています(図2)。日本脳炎は特異的な治療方法はなく、発症すると予後不良であるため、予防が重要です。JEVを媒介する蚊の対策を完全にするのは非常に難しく、ワクチン接種が最善策となります。現在、ワクチン接種の標準的接種時期は3歳以降ですが、2016年2月に日本小児科学会は、生後6箇月からの日本脳炎ワクチン接種開始の推奨対象の一つとして、日本脳炎流行地域に渡航・滞在する小児を挙げています(※)。これらの地域を訪れる場合は、ワクチン接種について医療機関に相談しましょう。

(※)公益社団法人日本小児科学会「日本脳炎罹患リスクの高いものに対する生後6箇月からの日本脳炎ワクチンの推奨について」

https://www.jpeds.or.jp/modules/news/index.php?content_id=197

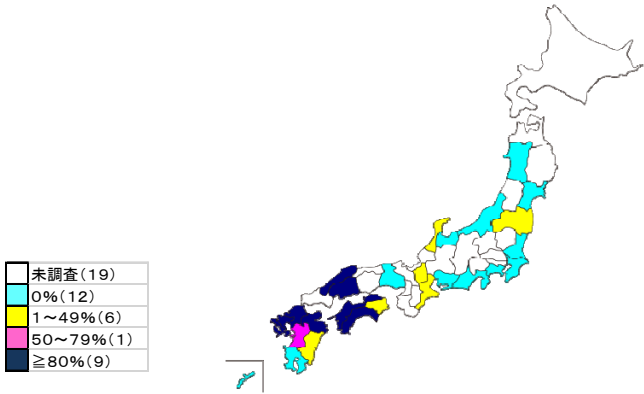
○京都市情報館ホームページ「京都市が実施する子どもの定期予防接種について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000130799.html>

(表1)全国における日本脳炎報告数の推移(2009年～2019年第48週まで)

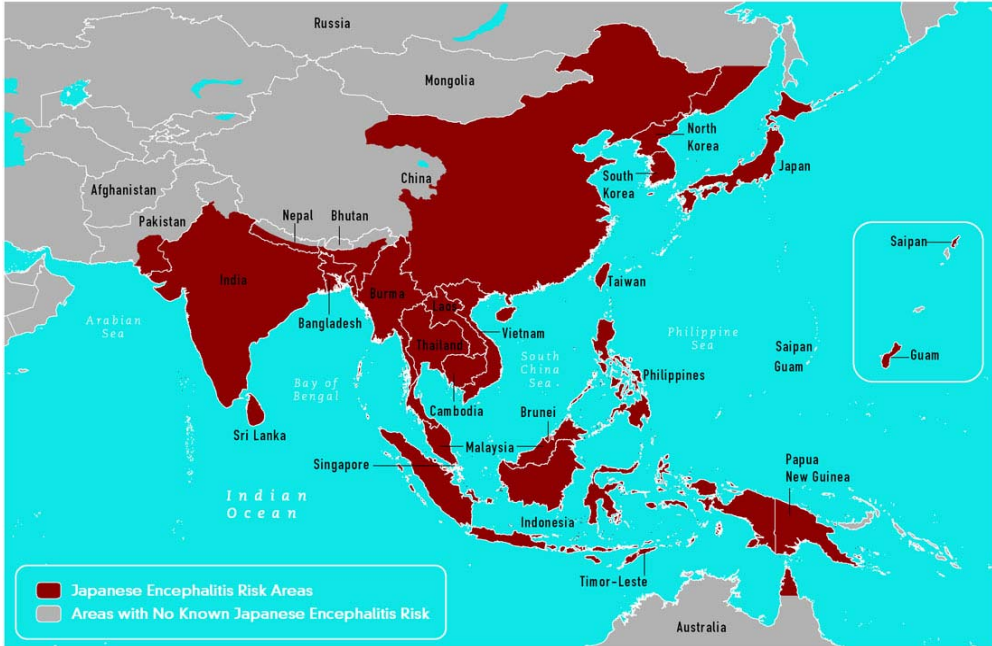
	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
報告数	3	4	9	2	9	2	2	11	3	0	8

(図1)日本国内におけるブタの日本脳炎抗体保有状況(2019年9月19日現在)



(※)国立感染症研究所「ブタの日本脳炎抗体保有状況-2019年速報第5報-」を基に作成(令和元年12月6日閲覧)
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/je-m/2075-idsc/yosoku/sokuhou/9096-je-yosoku-rapid2019-5.html>)

(図2)世界の日本脳炎流行地域(2019年2月8日現在)



※アメリカ疾病予防管理センター(CDC)から引用(令和元年12月6日閲覧)

(<https://www.cdc.gov/japaneseencephalitis/maps/index.html>)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第48週

疾病,行政区別報告数

2019年11月25日～2019年12月1日

データ入手日:2019年12月4日

	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	7	1	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-					
上京	6	-	2	4	5	3	1	1	-	-	-	-	-					
左京	17	1	1	12	26	11	1	1	2	1	-	-	-					
中京	4	2	3	-	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
東山	7	4	1	-	11	1	-	-	-	-	-	-						
山科	13	1	-	10	3	-	-	1	4	-	-	-	-					
下京	1	-	-	-	2	2	-	-	-	-	1							
南	13	-	-	4	9	1	-	2	2	1	1							
右京	18	5	8	33	32	7	10	2	1	-	-	-	1					
伏見	25	-	1	9	55	2	3	2	2	-	-	-	-					
西京	10	-	2	4	19	3	-	2	-	-	1	-	-					
京都市計	121	14	19	78	165	30	16	11	11	3	3	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	1.00	0.25	0.25	0.50	-	-	-	-	-	0.25	-	-	-					
上京	1.20	-	0.67	1.33	1.67	1.00	0.33	0.33	-	-	-	-	-					
左京	2.43	0.25	0.25	3.00	6.50	2.75	0.25	0.25	0.50	0.25	-	-	-					
中京	0.80	0.67	1.00	-	1.00	-	0.33	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-
東山	2.33	2.00	0.50	-	5.50	0.50	-	-	-	-	-	-						
山科	1.86	0.20	-	2.00	0.60	-	-	0.20	0.80	-	-	-	-					
下京	0.33	-	-	-	1.00	1.00	-	-	-	-	0.50							
南	2.60	-	-	1.33	3.00	0.33	-	0.67	0.67	0.33	0.33							
右京	2.25	1.00	1.60	6.60	6.40	1.40	2.00	0.40	0.20	-	-	-	1.00					
伏見	2.27	-	0.14	1.29	7.86	0.29	0.43	0.29	0.29	-	-	-	-					
西京	1.25	-	0.40	0.80	3.80	0.60	-	0.40	-	-	0.20	-	-					
京都市計	1.75	0.33	0.44	1.81	3.84	0.70	0.37	0.26	0.26	0.07	0.07	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第48週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年11月25日～2019年12月1日

データ入手日:2019年12月4日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ（※1）	年齢1	121	－	2	3	2	8	4	8	9	9	5	2	20	5	7	10	17	5	2	－	3
RSウイルス感染症	年齢3	14	2	1	4	4	2	－	－	－	－	1	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		19	－	－	6	3	2	5	2	－	1	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		78	－	2	6	3	10	6	9	4	7	11	7	10	1	2						
感染性胃腸炎		165	3	8	21	18	21	19	10	15	9	10	6	11	6	8						
水痘		30	－	－	1	－	－	7	3	6	2	2	2	4	3	－						
手足口病		16	－	1	5	1	3	1	2	1	－	－	1	1	－	－						
伝染性紅斑		11	－	－	－	1	2	1	4	2	－	－	1	－	－	－						
突発性発しん		11	－	3	4	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		3	－	－	2	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		3	－	－	－	－	－	－	－	2	1	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	
細菌性髄膜炎（※2）	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎（※3）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎（※4）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ（※1）	年齢1	1.75	－	0.03	0.04	0.03	0.12	0.06	0.12	0.13	0.13	0.07	0.03	0.29	0.07	0.10	0.14	0.25	0.07	0.03	－	0.04
RSウイルス感染症	年齢3	0.33	0.05	0.02	0.09	0.09	0.05	－	－	－	－	0.02	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		0.44	－	－	0.14	0.07	0.05	0.12	0.05	－	0.02	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.81	－	0.05	0.14	0.07	0.23	0.14	0.21	0.09	0.16	0.26	0.16	0.23	0.02	0.05						
感染性胃腸炎		3.84	0.07	0.19	0.49	0.42	0.49	0.44	0.23	0.35	0.21	0.23	0.14	0.26	0.14	0.19						
水痘		0.70	－	－	0.02	－	－	0.16	0.07	0.14	0.05	0.05	0.05	0.09	0.07	－						
手足口病		0.37	－	0.02	0.12	0.02	0.07	0.02	0.05	0.02	－	－	0.02	0.02	－	－						
伝染性紅斑		0.26	－	－	－	0.02	0.05	0.02	0.09	0.05	－	－	0.02	－	－	－						
突発性発しん		0.26	－	0.07	0.09	0.05	0.05	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.07	－	－	0.05	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
流行性耳下腺炎		0.07	－	－	－	－	－	－	－	0.05	0.02	－	－	－	－	－	－					
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	0.10	－	－	－	
細菌性髄膜炎（※2）	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎（※3）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎（※4）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第48週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年12月4日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	28	39	32	38	67	121
RSウイルス感染症	41	30	18	21	17	14
咽頭結膜熱	10	5	22	25	18	19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	51	44	72	73	78
感染性胃腸炎	98	123	101	115	135	165
水痘	20	10	17	17	42	30
手足口病	33	33	22	9	13	16
伝染性紅斑	27	26	22	25	17	11
突発性発しん	13	12	14	13	9	11
ヘルパンギーナ	11	10	2	5	6	3
流行性耳下腺炎	4	1	-	-	1	3
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	6	-	-	1	2
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	324	346	294	340	399	473

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.41	0.57	0.46	0.55	0.97	1.75
RSウイルス感染症	0.95	0.70	0.42	0.49	0.40	0.33
咽頭結膜熱	0.23	0.12	0.51	0.58	0.42	0.44
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.91	1.19	1.02	1.67	1.70	1.81
感染性胃腸炎	2.28	2.86	2.35	2.67	3.14	3.84
水痘	0.47	0.23	0.40	0.40	0.98	0.70
手足口病	0.77	0.77	0.51	0.21	0.30	0.37
伝染性紅斑	0.63	0.60	0.51	0.58	0.40	0.26
突発性発しん	0.30	0.28	0.33	0.30	0.21	0.26
ヘルパンギーナ	0.26	0.23	0.05	0.12	0.14	0.07
流行性耳下腺炎	0.09	0.02	-	-	0.02	0.07
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.60	-	-	0.10	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	7.29	8.17	6.56	7.57	8.77	10.09

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。